


県政調査計画書

平成 28 年 2 月 15 日

県議会議長 土井 りゅうすけ 殿

会派名 民主党・かながわクラブ

団長名 たきた 孝 

(署名又は記名押印)

県政調査を次のとおり計画しましたので、よろしくお取り計らいください。

1 調査議員	(調査団長) 茅野 誠 (団員) 松本 清 さとう 知一 中村 武人
2 調査目的	外国人留学生支援、動物愛護、バイオトイレ、がん治療の取組の先進的な事例を調査することにより、本県における今後の施策の推進に資する。
3 調査期間	平成28年3月28日～30日
4 調査地	北海道
5 調査項目	<p>(1) 東川町役場 東川町役場では、平成21年より「東川町短期日本語・日本文化研修事業」を開始し、アジアからの外国人留学生を積極的に受け入れており、町の魅力を世界へ発信することで、交流人口が拡大し、地域の活性化を図っている。 同町の外国人留学生支援施策を調査することにより、本県の取組の参考に資する。</p> <p>(2) 旭川市動物愛護センターあにまある 同施設では、飼い主への適正・終生飼養の啓発強化、譲渡の積極的な推進などにより、犬や猫の殺処分を極力低減する施策に取り組んでいる。 同施設の動物愛護施策を調査することにより、本県の取組の参考に資する。</p>



	<p>(3) 旭山動物園、正和電工株式会社 旭山動物園では、急増した来園者のトイレ問題を正和電工社製のバイオトイレを導入することで解消しており、このバイオトイレは、オガクズを使用することで、水を使わず環境に優しいだけでなく、断水時や災害時などでも使用できる利点がある。 バイオトイレの有効性について現地での取組も含めて調査することにより、本県の取組の参考に資する。</p> <p>(4) 北海道大学病院陽子線治療センター 同施設では、腫瘍を照射する陽子ビームを細いまま移動させて、ピンポイントに照射する技術である「スポットスキニング法」を陽子線治療に用いており、この治療方法は、複雑な形状をした腫瘍でも、高い精度で陽子ビームを照射できることから、正常部位への影響を最小限に抑えることができるため、患者への負担が少ない。 同施設のがん治療の取組を調査することにより、本県の取組の参考に資する。</p>												
<p>6 経費の概算額</p>	<table> <tr> <td>一人当たりの議員経費</td> <td>.....</td> <td>135,120円</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>交通費</td> <td>98,520円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>宿泊費</td> <td>33,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>日当</td> <td>3,600円</td> </tr> </table>	一人当たりの議員経費	135,120円	内訳	交通費	98,520円		宿泊費	33,000円		日当	3,600円
一人当たりの議員経費	135,120円											
内訳	交通費	98,520円											
	宿泊費	33,000円											
	日当	3,600円											

* 日程表を添付する。

県政調査日程表

日	月日(曜)	調査地	現地時間	交通機関 (所要時間)	調査箇所及び調査内容
1	3月28日 (月)	■北海道 上川郡 東川町	午前 午後	航空機 車両 車両	移動(羽田空港→旭川空港) ■東川町役場 ・外国人留学生への日本語研修事業について 移動(東川町→旭川市) ＜旭川市内泊＞
2	3月29日 (火)	■北海道 旭川市	午前 午後	車両 車両 公共交通機関	■旭川市動物愛護センターあにまある ・犬や猫の殺処分を低減する取組について ■旭山動物園 ・バイオトイレの使用状況について (現地視察) ■正和電工株式会社 ・バイオトイレについて 移動(旭川市→札幌市) ＜札幌市内泊＞
3	3月30日 (水)	■北海道 札幌市	午前 午後	車両 航空機	■北海道大学病院陽子線治療センター ・最先端技術による陽子線治療について 移動(新千歳空港→羽田空港)

県政調査計画審査結果

県政調査計画について審査したところ、結果は次のとおりでした。

調査実施議員名	(調査団長) 茅 野 誠 (団 員) 松 本 清、さとう 知 一、中 村 武 人
---------	---------------------------------------------

1 要領2(1)の基準への適否

区 分	調査の基準	計画の内容	適否
① 調査経費	議員1人当たり100万円以内	議員1人当たりの経費は、135,120円であり、基準を満たしている。	適
② 調査箇所	1日につき午前及び午後それぞれ1箇所以上調査実施 移動日は1箇所以上調査実施	移動日について1箇所以上、それ以外の日について午前及び午後それぞれ1箇所以上調査を実施する行程となっている。	適

2 調査計画に対する審査所見

区 分	所 見
① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。	<p>(1) 外国人留学生支援施策を通じて、地域の魅力を世界に発信する取組を調査することは、本県の魅力を外国人に向けて発信し、世界とのネットワークをつくる取組の参考に資する。</p> <p>(2) 動物の命を大切に、犬や猫の殺処分を極力低減する取組を調査することは、人と動物の共生を目指す本県の動物愛護施策の参考に資する。</p> <p>(3) 環境に優しいだけでなく、災害時などの水を使えない状況でも使用できるバイオトイレの取組を調査することは、本県の水源環境保全・再生施策及び災害対策の参考に資する。</p> <p>(4) 最先端技術によるがん治療の取組を調査することは、患者の負担をより軽減するがん治療を目指す本県のがん対策の参考に資する。</p> <p>以上のことから県政課題解決の一助となるものと認められる。</p>

区 分	所 見
<p>② 調査の実施時期が時宜を得たものか。</p>	<p>(1) 本県では、留学生など神奈川に親しみをもつ国内外の外国人の方々や、その方々を支える人々によるネットワークである「かながわ国際ファンクラブ」を立ち上げて活動しており、今後もさらに外国人を呼び込み神奈川の魅力を発信する必要があることから、外国人留学生支援施策の調査は、時宜を得たものである。</p> <p>(2) 本県では、平成 26 年度に動物保護センターに収容された犬と猫の殺処分ゼロを達成したところであり、今後も殺処分ゼロの継続を目指して、収容数の減少、譲渡の推進などに取り組んでいく必要があることから、動物愛護施策の調査は、時宜を得たものである。</p> <p>(3) 本県では、「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」に基づき、継続的な水源環境の保全・再生に取り組んでいるところであり、水源環境に優しいバイオトイレの取組の調査は、時宜を得たものである。</p> <p>(4) 本県では、平成 27 年 12 月に完成した重粒子線治療施設 i-ROCK が、これから一般の患者への治療を開始していく中で、同様の最先端技術によるがん治療を行っている施設への調査は、時宜を得たものである。</p>
<p>③ 現地に赴かなければ調査目的が達成できないものか。</p>	<p>各分野について、本県における今後の施策内容に活かしていくためには、現地に赴き、現場職員から取組内容やその成果について、具体的かつ詳細に調査及び聴取しなければ、調査目的を達成することはできないものである。</p>
<p>④ 調査箇所、行程、経費等は妥当なものか。</p>	<p>調査箇所、行程、経費等は、県政調査実施要領の基準を満たし、妥当なものである。</p>